

高等学校 芸術科(美術Ⅰ)学習指導案

指導者 森長 俊六

日時 平成28年10月15日(土) 第2限(10:35~11:25)

場所 美術教室

学年・組 高等学校Ⅰ年 芸術科美術選択クラス(ア) 33人(男子18人, 女子15人)

題材 日本の伝統美術 絵巻『伴大納言絵詞』

- 目標
1. 描かれている場面のストーリーを想像したり, 表し方のおもしろさに着目したりしながら絵巻の魅力を楽しむ。
 2. 友達との交流を通して, 作品をより深く味わう。

指導計画(全2時間)

第一次 絵巻における時間表現の工夫を感じ取る。・・・・・・・・・・1時間(本時)

第二次 絵巻の面白さ, ストーリー展開の工夫を楽しむ。・・・・・・・・・・1時間

授業について

日本四大絵巻の一つ『伴大納言絵詞』は、『信貴山縁起絵巻』と並んで連続式絵巻の最高傑作と言われている。その表現の緻密さを感じ取り, ストーリー展開の工夫に気づかせることは, 日本の伝統文化に触れることに他ならない。特に「ケンカ」の場面は, 一つの構図に時間の経過を埋め込むという異時同図法が使われている。また, 未だ登場人物が特定されていない箇所があるなど謎も多い作品である。作者の意図や表現の工夫に思いを馳せながらその魅力を味わわせたい。

このクラスは, 高校に入学後, 1学期はデザインや彫刻など表現活動を行ってきた。美術館での鑑賞授業も行ったが, 日本美術の鑑賞活動は初めてである。ただし4割の生徒は附属中学校の出身であり, 彼らは中学2年時に『信貴山縁起絵巻』と『鳥獣人物戯画』を題材に絵巻の学習をしている。クラス全体としては, 表現活動など集中して取り組むことができるが, 自分の考えを発表することに対して積極的な生徒は多くない。今回, グループ活動や発表の機会を取り入れることにより, アクティブ・ラーナーとしての資質を身に付けさせるだけでなく, 日本の伝統美術に興味関心を持たせ, 理解を深めさせたい。

絵巻の基本的な鑑賞の仕方については, 既習の生徒もいるが, あらためて全体で確認し, 高校からの入学者については既習事項を事前に調査する。俯瞰の構図や「すやり霞」などについては復習するが, 異時同図法についてはあえて触れない。アクティブ・ラーニングへの仕掛けとしては, 作品に対する新鮮な感動が何よりも重要である。そこで質の高い鑑賞資料が必要となる。原本を扱った画集の図版では, 折り皺などで詳細が掴みにくいということもあり, 復元模写版を使用する。

題目 いったい何が起きている?

本時の学習目標

- ・ 絵巻物における時間表現の工夫に気付く。
- ・ 豊かな発想でストーリー展開を構想できる。
- ・ 友達との交流を通して, 作品をより洗練された解釈で鑑賞することができる。
- ・ 根拠を示して発表することができる。

本時の評価規準(観点/方法)

1. 主体的に物語を読み解こうとすることができる。(関心・意欲・態度/話し合い)
2. 友達との交流を通して, 作品をより深く味わうことができる。(鑑賞の能力/話し合い, 発表)

本時の学習指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
<p>導入(5分)</p> <p>展開 1 (25分)</p>	<p>○絵巻の資料(部分)を受け取る。(全員)</p> <p>○絵巻を鑑賞する。 ・どのような情景か思いを巡らす。 ・ワークシートに書き込む ○○をしているところ。 ○○が○○で○○のようす。</p> <p>○本時の学習内容を知る。 ・描かれている場面がどういふ場面か考え、何が起きているのか推測する。 ・その出来事が分かるように、そこに描かれている人物の言葉や会話を想像してセリフをいれる。</p> <p>○本時の具体的な流れを聞く。 ①グループに分かれる。 ②グループごとに場面を想像する。 　　どういふ情景かを考えセリフを考える。 ③他者に分かるように簡潔にセリフを書き込み、吹き出しを貼る。</p> <p>○グループ毎に教材を受け取る。 ・縮刷版(グループ用), 吹き出し用の紙, はさみ, のり, フェルトペン</p>	<p>○絵巻のタイトルやストーリーは一切伏せる。 ○物語の流れの中で、重要な場面であることを強調する。 ・ある絵巻物の一部分です。 ・現在は上中下の3巻に分かれています。元々は1巻だったといわれています。 ・全長約26m分の1.4m分です。 (関・意・態)(鑑)</p> <p>○セリフを入れる注意点。 ・重要と考えられるセリフに絞り込む。 ・吹き出しの位置や大きさを考える。</p> <p>○4人ずつのグループを基本とする。 (関・意・態)(鑑)</p>
<p>いったい何が起きている？</p>		
<p>展開 2 (15分)</p> <p>まとめ(5分)</p>	<p>○グループ内で「何が起きているか」を踏まえ、具体的なセリフを考え、書き込み、吹き出しを貼る。 ・描かれている場面を解釈する。 ・場面を理解した上でセリフを考える。</p> <p>○グループごとに発表する。 　　そのように解釈した理由を述べる。</p> <p>○他の班の発表の感想を記入する。 ・色々な見方感じ方を知る。</p> <p>○場面の状況を説明する。詳しくは次回 ○自己評価表に記入する。 ・本時の学習を振り返る。</p> <p>○次時の内容や準備物を確認する。</p>	<p>○状況に応じて場面を考えるヒントを紹介する。 ・大きく二つの情景が描かれています。(構図に注目) ・右のケンカの場面の子どもと大人は同一人物が複数描かれています。 ・左の叫んでいる夫婦は右の足蹴にされた子の両親です。</p> <p>○根拠を語らせたい。</p> <p>○活動を振り返らせる。 ・積極的に参加したか。 ・自分なりの場面の組み立てができたか。 ・他者の見方に共感できたか。 (関・意・態)(鑑)</p>
<p>準備物 教師：『伴大納言絵詞』の縮刷版(部分), グループ用のり, はさみ, フェルトペン, ワークシート, 書画カメラ, 大型テレビ, 電子黒板</p>		